

主催者様の声

第 39 回地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム 2019(IGASS2019)

2019 年 7 月 28 日 (日) ~ 8 月 2 日 (金) まで、パシフィコ横浜にて開催された「第 39 回地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム 2019 (IGASS2019)」を終えて、組織委員長を務められた東京大学大学院工学系研究科 電気系工学専攻 廣瀬 明 教授にお話を伺いました。

1. 第 39 回地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム 2019 (IGASS2019) は 1993 年 (東京・工学院大学) 以来 26 年ぶりとなる日本での開催となりました。今回の開催の意義や成果についてお聞かせください。

前回の日本開催から四半世紀で地球環境の変化は一層激しく深刻になり、地球科学とリモートセンシングの重要性はますます増大しています。そのような中で、今回、本国際シンポジウムを日本の横浜で開催できたことは大変有意義でした。日本は世界のこの分野の科学技術を牽引する主要な国の一つであり、特に大学や国立研究機関、関連企業等が集積しているこの地区での開催によって、世界の研究者および学生の交流を大きく加速することができました。



2. ソーシャルイベントも多様なメニューを組まれていました。どのような工夫をされたのでしょうか。

まず、天皇皇后両陛下のご臨席を賜った開会式では、陛下のおことばから、この分野へのご関心・ご期待を強く感じ、われわれ研究者は鼓舞されるとともに責任の重さを新たにしました。またレセプションでは両陛下と楽しく和やかに技術的な内容等について、ご懇談を行うことができ、特に海外研究者からとても印象深い経験をさせていただいたと喜ばれました。

ソーシャルイベントとしましては、横浜近郊の研究所を尋ねるテクニカルツアーや鎌倉等を尋ねる文化ツアーの

他に、横浜の夜をジャズで楽しむイベントや、屋形船での遊覧、本シンポジウム恒例のサッカー大会などを行いました。さらに「野毛ナイト (Noge Evening)」を実施しました (パシフィコ横浜様ご発案)。これは日本のカジュアルな雰囲気を経験してもらおうと、日本に不慣れな海外参加者でもチケットで自ら野毛地区の居酒屋を体験できるもので、日本の素顔が見られたと好評でした。



3. 海外からの参加者の方々には横浜に初めていらっしゃる方が多かったと思いますが、横浜の印象などは耳にされましたでしょうか。

みなとみらい地区は街がきれいで機能的で過ごしやすかった、と大変好評でした。たとえばクイーンズスクエアなどのモールが至近にあり、昼食時に真夏でも快適に店を選び食事をとることができたと喜んでいました。また近辺の公共交通の便も良く、さらに羽田空港から近いため、多くの参加者から素晴らしいとの声を聞きました。



4. 横浜市、横浜観光コンベンション・ビューロー（YCVB）の支援体制はいかがでしたでしょうか。どのようなことがお役にたちましたでしょうか。今後、開催地に期待することがあればお聞かせください。

横浜市および横浜観光コンベンション・ビューローの皆様からは、開催のかなり以前から各種情報をいただき、助成金も含め大変お世話になりました。ありがとうございました。特に教育・アウトリーチ活動の「宇宙から調べよう！リモートセンシングで見る地球のすがた」は横浜市次世代育成事業として取り上げてくださり、小中学生への広報も含めてお世話になりました。たくさん集まった子供たちの輝く目を見て、将来の研究者がここからきっと出てくるぞ、とうれしくなりました。



IGARSS2019 ;

会議名： 2019 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium (IGARSS 2019)

主催者： IEEE Geoscience and Remote Sensing Society

日時： 2019年7月28日～8月2日

場所： パシフィコ横浜